

2008年9月16日
MR/J38/08



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-5467-1212
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: <http://www.unu.edu/>

アジア初、映画「平和の戦士たち」 国連大学で上映

イベント： 「私たちの世界 2.0」－平和と創造性のサロン
日付： 2008年9月26日（金）午後5時～9時30分
場所： 国連大学本部（渋谷区）
主催： 国連大学（メディアスタジオおよび「平和とガバナンス」プログラム）
Global Lives Project
後援： 武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ（GPPAC）、ピースボート、
世界平和度指数
協賛： ソニー株式会社、テンプレ大学日本校

- 国連大学は、国連により制定された、2008年の国際平和デーを記念し、社会の認識を高めるため、アジア初公開となる期待の長編映画『平和の戦士たち』（制作：ワンツリー・フィルムズ、オーストラリア）を上映する。本作品は、国連平和大使のマイケル・ダグラスがナレーションを担当し、サー・ボブ・ゲルドフ、サー・リチャード・ブランソン、デズモンド・ツツ大主教、ヨルダンのハッサン皇太子、ハンス・ブリックスらが出演。世界の14カ国の平和の物語を描いたもので、『不都合な真実』の平和アドボカシー版とも表現できる。また本作品は、世界にポジティブな変化をもたらすために、映画が大きな役割を果たすということをはっきりと示している。
- 本作品の監督や制作者は、平和の推進者としての国連大学の役割を評価し、アジアの初公開の場に国連大学を選んだ。「東京の国連大学でこの映画を特別上映する機会が与えられ、大変嬉しく思っています」と、『平和の戦士たち』の監督ティム・ワイズ氏。「これは、行動を起こすよう呼びかける映画です。アル・ゴアと『不都合な真実』はその映画によって、地球温暖化の重要な諸問題についての社会の認識を高めました。同じように、『平和の戦士たち』を通じて世界平和の重要性に対する社会認識を高めたいのです。この映画を見るすべての人が、世界平和推進のために自分ができる＜小さなこと＞をしようと思ってもらえることを願っています」。
- 本イベントではまた、平和な世界は創造的な世界であるという認識に基づき、世界の直面する緊急課題を検討する2本の新作映画を上映する。世界初公開となる「英知への歳月」と、賞に輝くドキュメンタリー「チチナウツインの声」である。
- 関係性が深まり、グローバル化の進む世界の一部では、国民どうしの違いや共通点が認識されつつあることから、国連大学はさらに、ブラジル人、マラウイ人、日本人、アメリカ人の4名の生活を24時間にわたって同時進行的に捉えた「Global Lives Project」の試写会を行う。
- マスコミ関係者のため、国連大学のドキュメンタリーの制作者や監督へのインタビューや、「平和の戦士たち」のワイズ監督への質問を行う時間を設けている。ワイズ監督はオーストラリアからオンラインで回答する予定。
- 本イベントは無料で一般公開される。プログラムの予定は以下の通り。

- 午後5時 「英知への歳月」世界初上映
- 午後6時 「Global Lives Project」ビデオ上映
- 午後7時 「平和の戦士たち」アジア初上映
- 午後8時半 サロン（飲み物、発表、上映、音楽）
- 午後9時 「チチナウツインの声」上映

MEDIA ADVISORY

本イベントの取材に関する連絡先：

国連大学広報部、担当：谷野（やの）または牧（TEL:03-5467-1212、e-mail: media@unu.edu)

映画について

『平和の戦士たち』ドキュメンタリーが、世界各地を回って描いているのはごく普通の人々だ。彼らはこの動乱の時代にあって、戦争ではなく平和こそ発展の手段であることを示し、皆に希望を与えている。本作は、寛容と理解とを通じて、平和を作り出すという大仕事に向けた、個人の行いや勇気ある行動がそれぞれどのようにつながっているか、また 21 世紀に生き残るためには、どのようなシステムティックな変化が求められているかを例証するものである。

本作に描かれた 14 カ国のストーリーは私たちに勇気を与え、私たちの力で本当にこの世界をよりよく変えていけることを教えてくれる。『平和の戦士たち』は、平和は作りだすことができるもの、という肯定的なメッセージを発信している。ひとりひとりが、平和の戦士の一人になることができるのだ。詳しくは WWW.SOLDIERSOFPEACEMOVIE.COM（英語のみ）を参照。

「英知への歳月」は、世界の最長寿国である日本の高齢者の生活に焦点を当てている。本ドキュメンタリーでは、科学によってどれほど寿命を延ばすことができるか、またいつまでも健康で活動的にいるために、社会的なつながりがどれほど役に立つかを検証している。さらに、高齢者のニーズに対応するには、都市や地域社会がどう変わらなければならないかを考え、健康の決め手となる社会的要因を政府の政策に盛り込むよう提言している。

<http://wisdom.unu.edu/>（英日）を参照。

「チチナウツインの声」は、人口の密集したメキシコシティ近くにあるチチナウツイン生物回廊の物語と、開発と保全のバランスを取ろうとする住民の試みを紹介するドキュメンタリーである。<http://voices.unu.edu/>（英語のみ）を参照。（本映画は 8 月 30 日、米国コロラド州ボルダーで開かれたムーンダンス国際映画祭で「最優秀長編ドキュメンタリー」に選ばれ、サンドキャッスル賞を受賞した。）

「Global Lives Project」は、世界各地から集まった 150 名以上のボランティアの映画制作者、美術家、建築家、プログラマーなどが、人間の生活体験をビデオライブラリーにまとめようとする共同の取り組みである。<http://globallives.org/>（英）参照。

国連大学「平和とガバナンス」プログラムについて

国連大学「平和とガバナンス」プログラムは、持続可能な平和とグッド・ガバナンス（良い統治）の促進に貢献することを目的として研究および能力育成活動を行っている。国連が関心を寄せる緊急かつ地球規模の課題に取り組み、現在直面している問題についての政策提言を作成し、平和・安全保障・ガバナンスに影響を与える国際政策の長期的傾向や実態を明らかにしている。

(<http://unu.edu/pg/>)

国連大学メディアスタジオについて

2003 年に設立された国連大学メディアスタジオは、東京を拠点とする小人数のチームが、グローバルなネットワークのパートナーと提携しながらオンライン学習教材の開発・普及に努めている。国連大学はこのメディアスタジオを通じて、魅力的で楽しく教育的な双方向コンテンツやビデオ・ドキュメンタリーの制作に取り組んでいる。(<http://www.mediastudio.unu.edu>)

国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として 1975 年に設立された、本部（東京）を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。
